

挑戦3 地域の特性を生かした産業おこし

将来の北薩地域は

豊富な地域資源を生かした農林水産業の振興や広域交通ネットワークの形成を基盤にした企業の進出・規模拡大等により商工業が発展するなど、地域の特性を生かした様々な産業が発展しています。

1 農業の振興

将来のイメージ

- 水田農業は、りようしよくみまい※26良食味米として地域ブランド米の銘柄が確立されるとともに、大規模経営体による水田をフルに活用した営農が実践されています。
- 畑作農業は、かんがい施設の計画的な整備が行われるとともに、野菜や果樹のかごしまブランド産地を中心として、※27新鮮で安心・安全な農産物が生産され、戦略的な生産・販売対策により一層の銘柄確立が進んでいます。また、さつまいもや葉たばこ、茶などについては担い手を中心に生産性の高い営農が確立されています。
- 畜産は、耕作放棄地等を活用した飼料自給率の高い、安心して安全な畜産物供給基地が確立しています。
- 担い手は、※28認定農業者、集落営農組織、農業参入企業など地域農業を担っていく幅広い人材や組織が確保・育成されています。
- 農業水利施設の適切かつ効率的な維持管理や長寿命化によるライフサイクルコストの低減により農業生産基盤が※29一層強化されています。

現状と課題

- 当地域の基幹作物である米は、品種がヒノヒカリに一極化しているため、消費者ニーズに対応した銘柄確立や新品種の導入等による経営のリスク分散などを図る必要があります。

また、米の消費量が減少する中、稲作農家の経営安定を図るためには、米と他作物との組合せや畜産農家との連携などにより水田をフルに活用する取組を強化する必要があります。

- 園芸については、農家の高齢化や長期的な価格低迷などにより生産規模は縮小傾向にある中、優位販売や付加価値形成のための産地間競争は激化しています。

また、国内自給率が低迷する中、消費者に信頼される競争力のある産地をつ

くるため、安心・安全な農産物生産を前提に、ニーズの変化に対応できる農家、法人等の担い手の育成やその組織化を図り、生産基盤や集出荷施設等の一層の整備に努める必要があります。

- 畜産では、肉用牛経営の大規模化が進む一方で、高齢化等に伴う飼養戸数の減少がみられ、その振興のためには、生産性の高い畜産経営体の育成が必要です。また、枝肉価格の低迷、配合飼料価格の高騰など経営環境が厳しくなっており、経営改善への支援や粗飼料の自給率向上を図る必要があります。

さらに、畜産物は景気低迷に伴い消費が減少しており、国内外への更なる販路拡大が必要です。

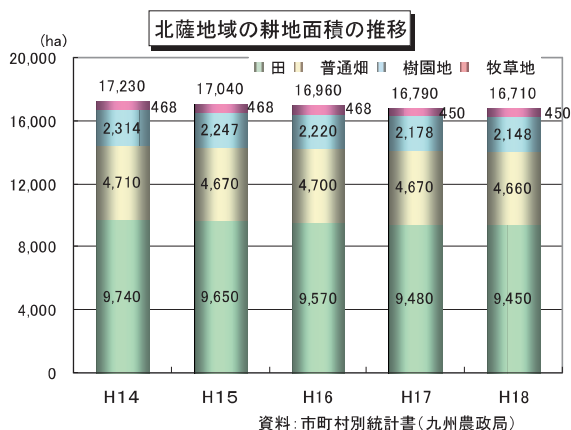
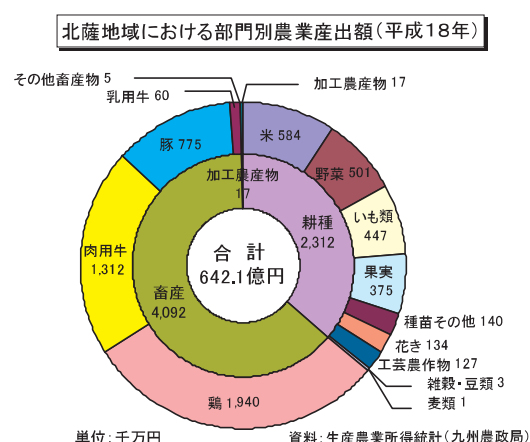
- 農業従事者の高齢化・兼業化に伴い担い手が減少する中、新規就農者や農業青年を技術力や経営感覚に優れた担い手として育成する必要があります。

また、地域農業のリーダーとなる認定農業者等の担い手を確保・育成するとともに、国内外の産地間競争に打ち勝つ企業的経営感覚を持った経営体の育成が求められています。

- 農業従事者の高齢化・兼業化等により耕作放棄地の増加が危惧されていることから、担い手への農地の利用集積や法人化の推進など各関係機関・団体が連携した担い手支援体制の強化を図る必要があります。

- 農業従事者の過半を占める女性が、農業経営や農村社会において力を発揮できる環境づくりが必要です。

- 畑地かんがい施設や揚排水機場、暗きょ排水などの生産基盤の一層の整備を進め、生産性の高い営農の普及を図る必要があります。



取組の方向性

(1) 水田農業の活性化

- 地域特性を踏まえた良食味品種(「あきほなみ」など)の導入等による「品質のよい米づくり」及び新形質米や加工用米による「多様な米づくり」への取組により、売れる米づくりを推進するとともに、中山間地域等では、減農薬・減

化学肥料栽培などの「安心・安全で環境にやさしい米づくり」の取組により付加価値の高い特色ある米づくりを推進します。

また、新規需要米、飼料用稲などの新たな取組を推進し、その定着・拡大を図ります。

さらに、販路拡大に向けたPR・情報発信や消費者との交流などによりブランド力の向上を図ります。

- 農地の流動化や作業受託の推進により一層の規模拡大を推進するとともに、労力分散を考慮した品種の組合せや米価の下落に対応できる低コスト栽培の実践を図ります。

また、新たに始まる戸別所得補償制度への加入促進や集落営農の組織化推進などにより、安定的な営農の展開を推進します。

- 需要に応じた生産調整に対応しつつ、作物の団地化やブロックローテーション^{※33}の取組、水田を活用した産地づくり、畜産農家との耕畜連携による飼料作物の確保等を推進します。また、鳥獣による農作物等の被害防止対策を推進します。

- 既存の農業水利施設の適正かつ効率的な管理を進めるとともに、暗きょ排水などの生産基盤の整備を行い水田をフル活用する取組を推進します。



県育成の良食味米「あきほなみ」モデルほ場



耕畜連携による飼料用稲の推進



暗きょ排水の施工により
水田をフル活用
(出水干拓東工区)

(2) 畑作農業の振興

- 野菜・果樹については、かごしまブランド産地指定品目・候補品目を中心に、

安心・安全な農産物の供給を基本とした生産・販売対策により、一層の銘柄確立と農家所得の向上に努めます。

また、量販店や加工業者等の新たなニーズに対応する担い手の育成及び東アジアなど海外への販路創出・拡大に取り組む農家団体等を支援します。

- 原料用さつまいもについては、生産性の高い加工用品種への転換やでんぷん用、焼耐用品種の組合せにより担い手を中心とした土地利用型の営農体系を推進します。
- 葉たばこについては、水田地帯の特色を生かした生産技術の確立、共同乾燥施設の活用や機械化一貫体系の確立による経営規模の拡大及び省力化を推進します。
- 茶については、茶園の集積や新植による産地規模の拡大及び加工施設の広域的な再編整備により担い手の育成を推進するとともに、新たな販路の開拓等により産地銘柄の確立を推進します。
- 花き・花木については、担い手や植木組合等を中心に、被覆施設や畑地かんがい施設等の有効活用を図りながら、需要に応じた多様な生産による産地化を進めます。



川薩地区のハウスきんかん



さつまいちご団地のいちご



出水の不知火



長島地区のばれいしょ



団地化された茶園

(3) 生産性の高い畜産団地の形成

■ 肉用牛については、各種事業等を活用した優良繁殖牛の保留推進により繁殖基盤の維持・拡大を図るとともに、地域内一貫生産体制を確立します。

また、肉用牛振興協議会による関係機関連携のもと、優良種雄牛による改良推進、生産性の向上、生産コスト低減等による畜産経営の体質強化を図ります。

■ 酪農については、経営の合理化・乳肉複合経営を基本に安心・安全な生乳生産に努めます。

■ 中小家畜においては、衛生対策・環境保全対策の徹底に努め、安心・安全な畜産物の生産を進めます。

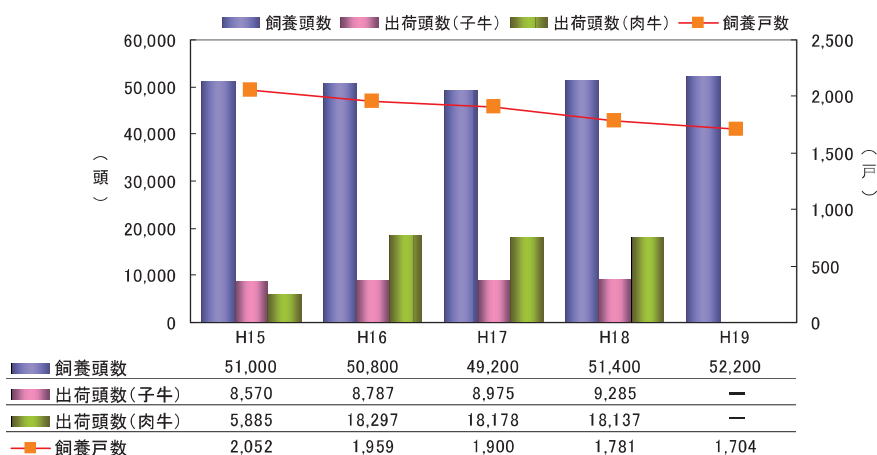
■ 飼料作物については、各種事業等を活用して耕作放棄地等を放牧地・飼料畑・飼料用稲生産地等への活用を図るとともに、^{※3 4}コントラクターの育成を支援します。

また、焼酎粕など未利用資源の飼料への活用を推進します。

■ 畜産物の流通については、国内外への販路拡大を検討します。

また、家畜市場については、全国的に高く評価されており、今後とも、子牛価格の安定による生産基盤の維持・拡大を推進します。

肉用牛飼養頭数等の推移【北薩】



※出荷頭数(子牛、肉牛)については、平成19年から調査していない。

資料：畜産統計市町村別データⅢ



良質子牛の生産

(4) 多様な担い手の確保・育成

- 各市町担い手育成総合支援協議会と連携し、担い手の認定農業者への誘導を進めるとともに、規模拡大、法人化などによる経営発展や企業的経営感覚に優れた経営体の育成を図ります。

また、消費者の農産物の安心・安全指向の高まりに対応し、新たな販路開拓や加工、直販部門への取組を推進します。

- 指導農業士等の先進農家と連携し、課題解決能力の向上のための研修会開催や活動支援により、将来の担い手となる新規就農者や青年等の確保・育成に努めます。

また、家族経営協定により後継者が経営参画しやすい環境づくりを推進するとともに、後継者確保の困難な農家が新規就農希望者へ経営を継承できる支援体制を構築します。

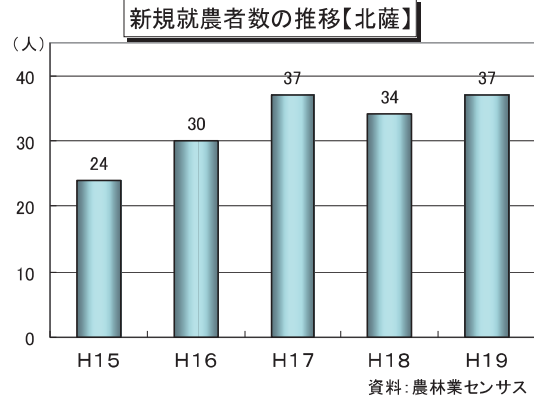
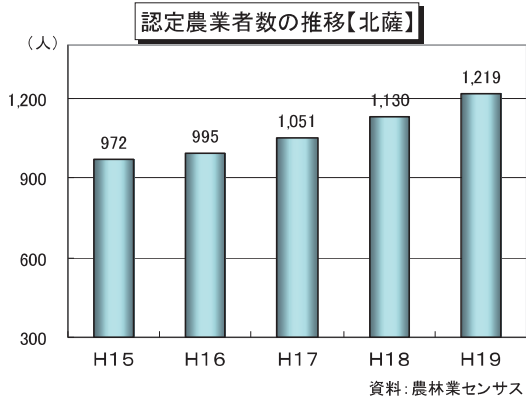
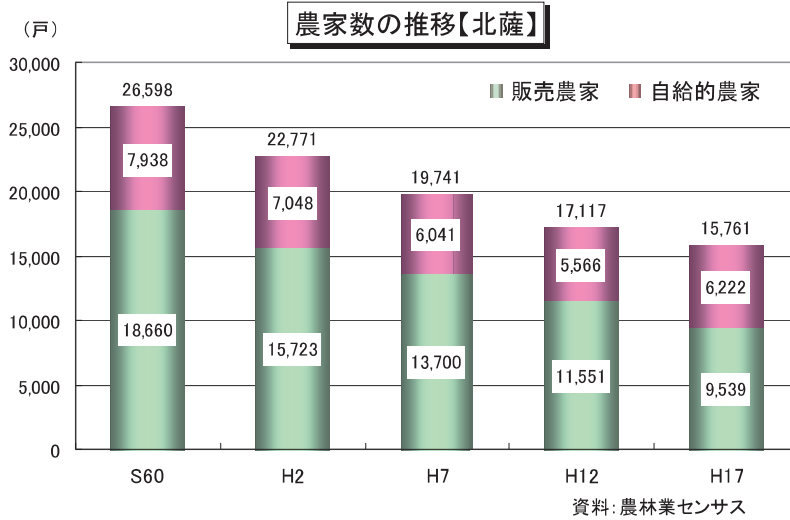
さらに、青年や若手女性等のネットワーク化を図り、地域農業への理解促進を図ります。

- 異業種から参入する企業等に対して栽培技術、経営の指導などを行い、多様な担い手の一つとして育成を図ります。
- 経営参画意欲の高い女性を対象とした研修会の開催や認定農業者の共同申請などにより、女性の就業条件の整備を推進します。

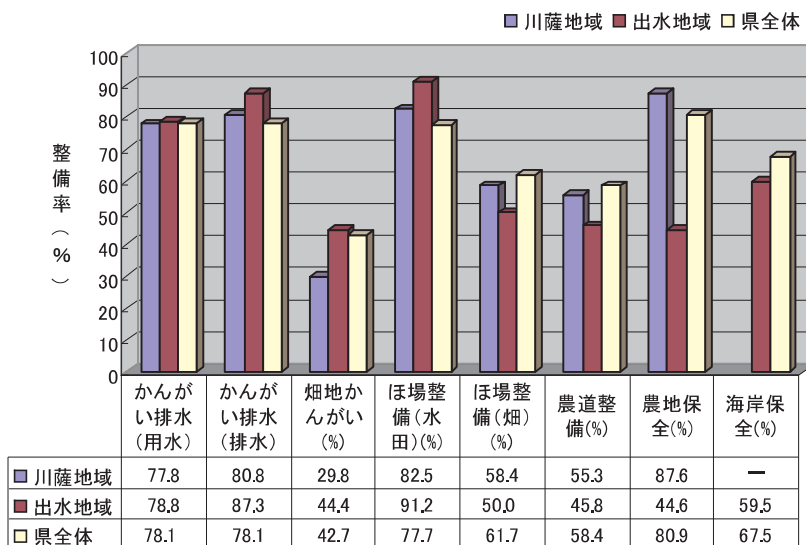
また、女性農業経営士等女性リーダーを育成し、地域における農業の方針決定の場への参画を促進します。

- 集落ぐるみの経営体制や農作業受委託の仕組みづくりなど集落営農の組織化や広域化・法人化等を推進します。

第4章 挑戦すべき課題と取組の方向性
 挑戦3 地域の特性を生かした産業おこし



農業農村整備事業の整備水準(平成21年4月)



- 26 良食味米：米の食味については、品種の違いや産地などに影響されるが、鹿児島県の普通期米地帯の中でも、一般的に昼夜の気温較差が大きい薩摩地区や伊佐地区などが良食味地帯である。また、米の食味評価の一つである玄米中のタンパク質含有率は、本県の普通期栽培の主要品種ヒノヒカリでは6.5%以下が目安となっている。
- 27 かごしまブランド：消費者や市場から高い評価を受けている鹿児島県を代表する農畜産物のこと。本県農産物のイメージアップと販路拡大を図るため、平成元年度から「かごしまブランド」確立運動を展開し、①品質の良いものを、②量をまとめて、③安定的に出荷できる、市場競争力のある産地づくりを進めている。この運動では消費者ニーズや激化する産地間競争の情勢に的確に対応するとともに、県内他産地のモデルとなるような優れた産地を「ブランド産地」として指定しており、平成3年5月には「ブランドマーク」を制定した。
- 28 認定農業者：農業経営基盤強化促進法に基づき、自ら作成する「農業経営改善経計画」（5年後の経営目標）を、市町村から認定された農業者。
- 29 ライフサイクルコスト：施設の建設費用とその施設の寿命が尽きるまでに要した修理費用及び廃棄に要する経費の合計額。
- 30 生産性の高い畜産経営：繁殖成績の向上や規模拡大によるコスト削減、飼養管理の徹底による安心・安全で高品質な畜産物を生産する経営。
- 31 粗飼料の自給率：家畜の餌として与える粗飼料のうち、生産者自らが作付・生産して得られる飼料作物や牧草、稲わらなどの割合のことで、購入粗飼料の量が増加すると自給率は下がる。
- 32 企業の経営感覚を持った経営体：技術や経営管理、マーケティングなどの能力を兼ね備えた経営者がいる農家。
- 33 ブロック・ローテーション：水田の集団転作の一手法で、転作を地域全体の課題として解決するため、地域の水田をいくつかのブロック（区画）に分けて、毎年、転作を実施するブロックを変えて、ブロックの数に応じた年数で一巡（ローテーション）する方式。
- 34 コントラクター：農家の労働力等を補うため、畜産農家等から、飼料作物の収穫作業等の農作業を請け負う組織。営農集団や農協のほか、民間企業等によるものがある。

2 林業の振興

将来のイメージ

- 伐期に達しつつある豊富なスギ・ヒノキ・広葉樹等森林資源の利用推進のため、生産性の向上とともに、木材加工施設の整備や、山から木材加工施設への丸太直送システムの定着など流通の合理化が図られ、木材を中国等への海外輸出をはじめ県内外へ安定的に供給できる県内有数の生産・流通拠点となっています。
- 豊富にあるヒノキ林が、間伐等を適切に実施され、また、林産物に被害を及ぼすシカが適切な密度に管理されて被害が軽減されるなど、「北薩ヒノキ」としてブランド化が進んでいます。
- 県内一を誇る竹林資源を有効に活用するため、放置竹林等の施業受委託体制が整備されるなどして、たけのこ・竹材等の生産振興や利用促進が図られ、さらに竹林の景観整備等を行い、観光資源としてグリーン・ツーリズムに活用されるなど地域特性を生かした「竹の里」づくりが行われています。